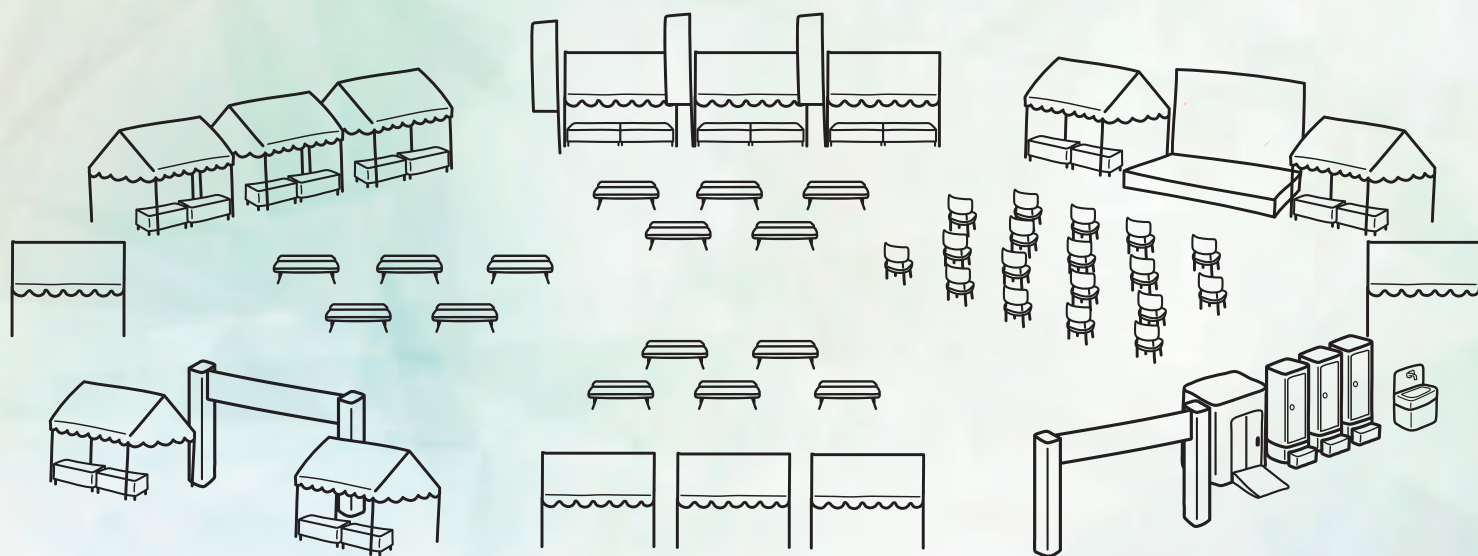


イベントにおける LGBTQ+ ハンドブック



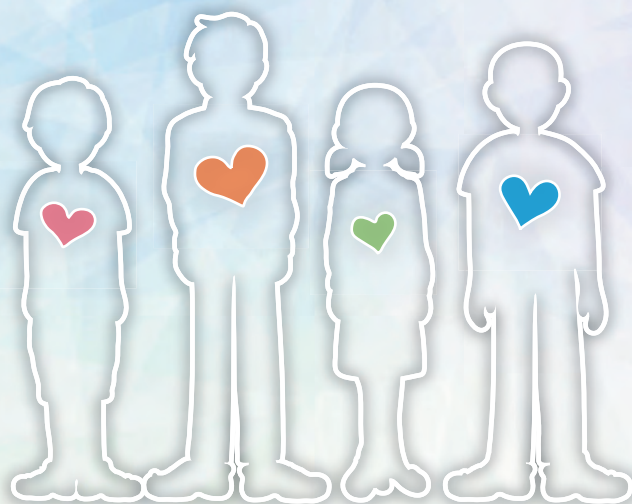


はじめに

株式会社セレスポは、1990年代よりイベント会場におけるバリアフリーに取り組みはじめ、現在までに、さまざまな特性を持つ、より多くの方が参加でき、楽しむことのできるイベント制作に取り組んできました。

本ハンドブックは、LGBTQ+に関する理解を深め、偏見や差別のないイベントを制作していくために作られました。

イベントに関わるスタッフ一人ひとりが適切な考え方を身につけ、状況に応じた適切な対応が取れるように、本ハンドブックを活用していきましょう。



I. LGBTQ+の基礎知識

(1) 性のあり方を構成する要素

性のあり方(セクシュアリティやジェンダー)は、「**出生時の性**」「**性自認**」「**性的指向**」「**性表現**」の要素により構成されます。個性やちがいを受け入れ、認め合うためにそれらの要素を知っておくことが大切です。

身体的性 戸籍などの性	出生時の身体的構造から判断される性別。 典型的な男性・女性の特徴と異なる人もいる。
性自認 こころの性	身体的性に関わらず、自分が認識している性別。 男性・女性と明確に区別して認識しない人もいる。
性的指向 好きになる性	恋愛や性的関心を持つ性別。異性、同性、両性を好きになる以外にも、 誰に対してもそのような感情を抱かない場合もある。
性表現 表現する性	言葉遣い・服装・しぐさなど、自分を表現する性別。

性のあり方は4つの要素で構成されますが、それぞれの要素が明確に男性・女性と区別されるものではなく、個人によって、異なります。一人ひとりに向き合っていく必要があります。

(2) LGBTQ+とは

LGBTQは、**レズビアン**、**ゲイ**、**バイセクシュアル**、**トランスジェンダー**、**クエスチョニング**/**クイア**の頭文字をとった用語で、性的マイノリティを表す総称です。このほかにもさまざまな性のあり方が存在するため、「+」を加えてLGBTQ+と表現することが増えました。

LGBTQ+関連で見かける6色の虹(赤・オレンジ・黄・緑・青・紫)は、性の多様性を表すシンボルであり、性的マイノリティの誇りとして使用されています。

レズビアン Lesbian	性自認が女性で恋愛対象も女性の人
ゲイ Gay	性自認が男性で恋愛対象も男性の人
バイセクシュアル Bisexual	恋愛対象が男性・女性両方の人
トランスジェンダー Transgender	生まれたときに割り当てられた性と性自認が異なる人
クエスチョニング Questioning	性自認や性的指向が明確でない、もしくは、あえて決めない人
クイア Queer	既存の性のカテゴリに当てはまらない人を包括する言葉

I. LGBTQ+の基礎知識

2019年にLGBT総合研究所が実施した調査によると、LGBTQ+の方は10.0%という結果が出ています。他にも類似の調査によっても概ね3～10%程度と言われています。これは、日本国内では、左利きや車いす利用者等の割合とほぼ同じです。

私たちの手掛けるイベントがLGBTQ+にも配慮されたものになれば、より多くの方が快適に楽しむことが出来るようになります。

(3) ALLY(アライ)とは

ALLY(アライ)とは、LGBTQ+当事者に共感し、支援のために行動する人のことです。当事者が何か困ったときに頼ったり相談できたりする味方のような存在で、LGBTQ+を積極的に支援していきます。身近にALLYがいることで、当事者の心理的安全性が高まります。

レインボーカラーのグッズを身近に置いたり、ALLYマークを身に付けたりすることで、応援・支援していくというメッセージを表現することができます。ALLYになるには特別な資格はありません。**大切なことはLGBTQ+の方に寄り添うとする気持ちを持っていることです。**



2. イベントにおけるLGBTQ+への心構え

イベントには非常に多くの方が参加します。障害のある方、外国人、高齢者など、配慮の必要な方も数多く参加します。一方、LGBTQ+については認識・理解が進んでいなかったこともあり、無自覚に配慮を欠いていた場合があったかもしれません。

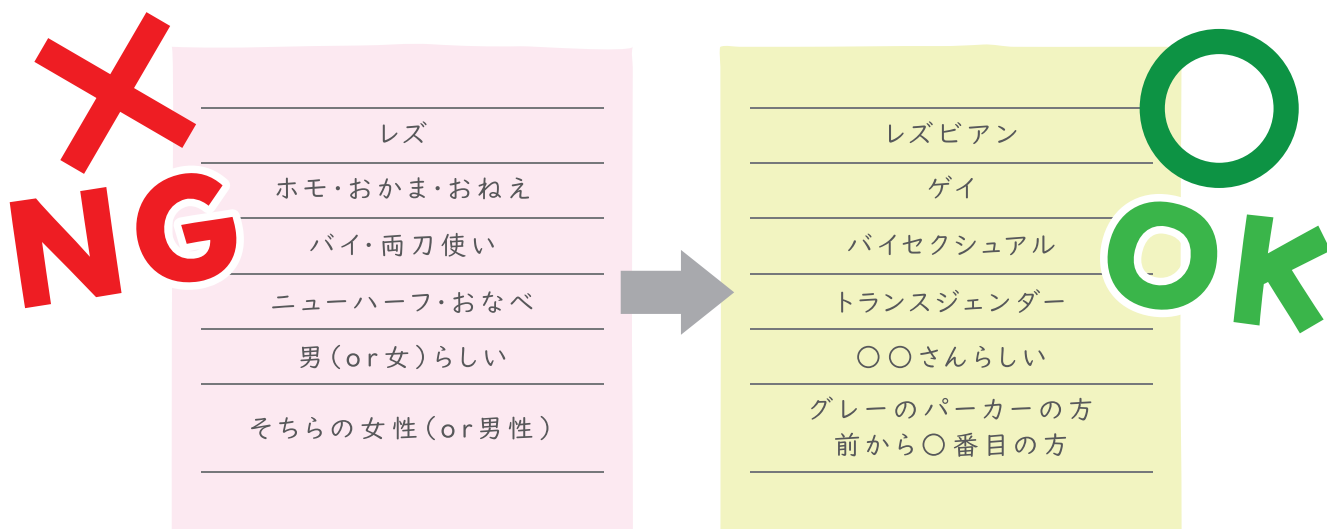
LGBTQ+への配慮は、当事者に対してだけでなく、LGBTQ+に理解を示す方への配慮でもあります。より多くの方が快適に楽しめる雰囲気をつくっていくためにも、次のような姿勢でイベント制作に臨みましょう。

安全な環境の確保

LGBTQ+への対応は、当事者に不快感を与えない、思いやりのある言動・行動が必要です。差別やハラスメントに対する明確な方針を策定し、性的指向・性自認に基づく偏見や差別を許さないという姿勢を明確にし、全ての関係者が毅然とした態度で臨むことが大切です。

気を付けたい言葉づかい

イベントでは告知・プログラム等における表現、来場者対応など、さまざまなコミュニケーションが行われます。意図せず差別的と受け取られたり、誰かを傷つけたりすることのないようにしましょう。



選択に対する配慮

参加申し込み、アンケート等における性別記入など、参加者が自分自身を表現できるようにします。個別更衣室やみんなのトイレ等の選択肢を用意することで、誰もが安心して利用できる環境を検討することも重要です。

パートナーシップの構築・サポートの提供

LGBTQ+団体やコミュニティと協力して、イベントをより包摂的にするためのパートナーシップを構築しましょう。イベント会場にはLGBTQ+の参加者が安心して相談できるサポート体制を整えることや、必要に応じてカウンセリングサービスや情報ブースを提供することが考えられます。

Check List

企画・制作



LGBTQ+フレンドリーなイベントにしていけることを関係者で共有します

主催者・関係者全員がLGBTQ+への正しい知識を知り、イベントの成功を目指します。



多様な視点を取り入れられるような体制でイベントを企画します

イベントにはさまざまな方が来場されます。

単一・画一的な視点だけにならないように、LGBTQ+に限らずさまざまな視点を持つ方が関われるような体制で企画をしていきます。



性の表現に配慮して企画をします

出生時に割り当てられた性別、性自認、性的指向、性表現に拘らず、多くの方が楽しめることを目指し企画をしていきます。



安心して利用できる空間を目指して会場選定や会場設計をします

トイレや更衣室について、必要な方が安心して利用できるように設置数、種類を計画段階から考えていきます。



男らしい、女らしいと決めつけた配色やデザインに配慮します

男性→青、女性→赤のように、性別のイメージでデザインを決めつけることはしません。主催者・関係者と一緒に考えていきます。



「男性用」、「女性用」の他に誰でも利用できるトイレや更衣室を配置・設置します

トイレの性別区分によって利用が制限され、使えない人も利用できるように安全性を担保した上で誰もが利用できる制限のないトイレの設置も心がけます。



アンケートや申込において性別を取得するときは、選択肢をつくります

性別や家族構成を取得するときは、回答内容に配慮します。

例) 性別を聞く際

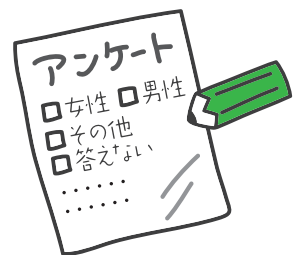
男性・女性・無回答・()等

例) 家族情報を問う場合

(配偶者・同居人・恋人・パートナー)などの言い換え、または自由回答

例) 「出生時に割り当てられた性別に関わらず、

自分が当てはまると自認される性別をご回答ください」等の注意書き



性別によらないご案内

女性に
おすすめ

美容に
興味のある方に
おすすめ



スタッフIDにALLYマーク

DEI※¹やLGBTQ+の教育を受け、当事者を応援していきたいと思ったスタッフは、IDにALLYマークを付けておくことで、当事者がちょっとしたことでも相談しやすくなります。

*スタッフ全員がマークをつけなければならないということではありません。



※1 DEI

ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公正性)、インクルージョン(包摂性)の頭文字を合わせた概念

Check List

💎 運営



容姿だけで性別を判断したお声がけはしません

容姿だけで判断し、性別を限定した言葉で呼びかけると、その人が認識している性ではないかもしれません。



案内・提案をするときは選択肢を提示します

性別を限定した体験の案内やノベルティなどの配布は、その人が望む対応や提案ではないかもしれません。



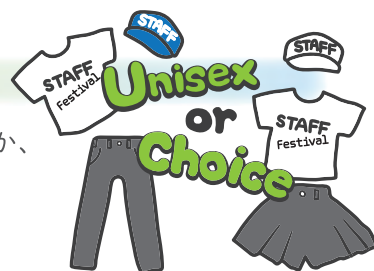
スタッフの役割を決める時はジェンダーバイアスを取り払います

出生時に割り当てられた性別、性自認、性的指向、性表現にこだわらず、多くの方が楽しめることを目指し企画をしていきます。



スタッフのユニフォームを選べるようにします

スタッフ用の制服・ユニフォームは男女兼用で利用できるものを用意するか、本人が選べるようにします。



💎 スタッフ教育



性のあり方はさまざまであることを理解します

LGBTQ+についての正しい知識を知り、偏見や差別のない誰もが安心して楽しめるイベントを制作していきます。



「正解はない」ことを理解し合います

LGBTQ+の方に限らず、「こうすればよい」という決まった対応はありません。大切なことは、目の前の方に向き合っていくことです。



スタッフや関係者が差別的な言動をしていたら、アドバイスをします

誰しも、無自覚に差別的な言動をしてしまう可能性はあります。気づいた人がアドバイスをし合える環境を作っていきましょう。



スタッフや関係者の中にもLGBTQ+の方がいることを理解します

カミングアウトをしている人だけがLGBTQ+の方ではありません。自分の周りにもLGBTQ+の方がいると思って、日常的な配慮を心がけましょう。



企画する時、マニュアルを作成するときは、ロールプレイをします

『イベントにおけるLGBTQ+ハンドブック』を読み、自分が当事者になった気持ちで企画やマニュアルを見直しましょう。



LGBTQ+ 座談会

～気にせず参加できる それが理想～

▼座談会のグラフィックレコード。様々な体験や率直な想いをお話いただきました。



ご参加の
みなさま

- 堀川 歩さん : トランスジェンダー (F+M)、(株)アカルク 代表取締役社長
- 村上 愛梨さん : レズビアン&クィア、日本女子ラグビーユニオン選手
- 齋藤 亜美さん : トランスジェンダー (M+F)、不動産業界勤務
- Kさん : ゲイ、飲食店経営&インフルエンサー

当事者の
こえ



堀川 歩さん

今回、セクシュアリティも世代も異なる複数名の当事者の方が集まり、「イベント」という観点から各々が感じていた悩みや理想について話し合える「場」を作っていただいたことはとても有難く、貴重なことだと思いました。

「イベント」と一言にいっても各自が興味を持ち参加しているイベントの内容も違えば、当事者とよく一括りにされがちですが個々によって感じ方も違う様子が語られているので、本ハンドブックが今後様々なイベント運営をされる方の一つのヒントになると良いなと思いました。

イベントの企画や運営を行う際に、多様な人への配慮を最初の企画段階からセットで検討できることが自然になっていくときとそのイベントはより多くの方が楽しんだり参加しやすくなると思うので、そんな会話が自然と出るようになってほしいなと願っています。

Check List

簡易版

チェック

企画・制作

- ☒ LGBTQ+フレンドリーなイベントにしていくことを関係者で共有します
- ☒ 多様な視点を取り入れられるような体制でイベントを企画します
- ☒ 性の表現に配慮して企画をします
- ☒ 安心して利用できる空間を目指して会場選定や会場設計をします
- ☒ 男らしい、女らしいと決めつけた配色やデザインに配慮します
- ☒ 「男性用」、「女性用」の他に
誰でも利用できるトイレや更衣室を配置・設置します
- ☒ アンケートや申込において性別を取得するときは、選択肢をつくります

運営

- ☒ 容姿だけで性別を判断したお声がけはしません
- ☒ 案内・提案をするときは選択肢を提示します
- ☒ スタッフの役割を決める時はジェンダーバイアスを取り払います
- ☒ スタッフのユニフォームを選ぶようにします

スタッフ教育

- ☒ 性のあり方はさまざまであることを理解します
- ☒ 「正解はない」ことを理解し合います
- ☒ スタッフや関係者が差別的な言動をしていたら、アドバイスをします
- ☒ スタッフや関係者の中にもLGBTQ+の方がいることを理解します
- ☒ 企画する時、マニュアルを作成するときは、ロールプレイをします

用 語	内 容
アウティング	本人からの了承を得ずに、本人の性のあり方を第三者に暴露すること。
アセクシュアル	他者に性的な興味を抱かない人のこと。
アライ	LGBTQ+当事者に共感し、社会をより良いものにしていきたいと考えている人のこと。
アロマンティック	他者に恋愛的に興味を抱かない人のこと。
カミングアウト	自らの性的指向や性自認を明らかにすること。
ジェンダー	社会的・文化的な性別。
ジェンダー・バイアス	男女の役割について固定的な観念を持つこと、社会の女性に対する評価や扱いが差別的であることや社会的・経済的実態に関する女性に対する神話。
シスジェンダー	性自認(自分の性をどのように認識するか)と生まれ持った性別が一致している人。
セクシャリティー	性にかかわる心理や行動、価値基準などを表すもの。
ソジ(SOGI)	性的指向と性自認の略称。 LGBTの当事者に限らず、全ての人の性的指向・性自認のことを指す。
ソジハラスメント(SOGIハラ)	相手の性的指向や性自認に対する侮辱的な行動を指す。
トランスジェンダー	出生時に医師から割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人。
トランスヘイト	トランスジェンダーに偏見を持ち、差別的・否定的な言動をとること。
パートナーシップ制度	同性同士の婚姻が法的に認められていない日本で、自治体が独自にLGBTQカップルに対して「結婚に相当する関係」とする証明書などを発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度。
プライド月間	「セクシュアルマイノリティの抵抗の象徴」となる事件が1969年6月に起きたことによる。今では6月に世界各地でLGBTQ+の権利を啓発する活動・イベントが実施される。
フラッグ	LGBTQ+を象徴する旗 赤はライフ、オレンジは癒やし、黄は太陽、緑は自然、青は調和、紫は精神の意味が込められていると言われている。
レインボーパレード	LGBTQ+に対する差別や偏見に反対し、セクシュアリティやジェンダーの多様性を祝うパレード、またはパレードの前後のイベントを含めた総称。
性別のグラデーション	一人ひとり顔や性格がちがうように、性は人によりさまざまで、「男性」「女性」とはっきり分けられるものではないということ。
F+M(Female to Male)	生まれたときに女性という性を割り当てられたものの、男性として生きることを望む人。
M+F(Male to Female)	生まれたときに男性という性を割り当てられたものの、女性として生きることを望む人。
Xジェンダー	男性や女性ではない性を望む人(中性、無性)。
ミスジェンダー	本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをすること。

参考資料： 公益財団法人東京都人権啓発センター
PRIDE JAPANマガジン
IDEAS FOR GOOD マガジン
JobRainbowマガジン
LGBT労務管理支援ネット

監 修： 株式会社アカルフ



発行日 2024年6月12日

発行元 株式会社セレスポ(CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5(本社)
TEL:03(5974)1111 FAX:03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>